

平成30年 3月22日

平成29年度科学研究費補助金学内奨励金研究成果報告書

武庫川女子大学
武庫川女子大学短期大学部
学長 糸魚川 直祐 様

所属・職 心理・社会福祉学科 准教授

氏 名 佐藤 淳一 印

(予算科目：21902 特[研]奨励 82)

平成29年度に採択された科学研究費補助金学内奨励金研究について、次の成果を得ましたので報告いたします。

記

- 1 研究課題名 [心理査定の印象評価に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因に関する研究]
- 2 平成30年度 科研費に応募した研究種目名称 [基盤 (C)]
- 3 研究成果概要 (800字以上)

研究1 研究1は、心理査定の印象評価に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因を検討するため、箱庭作品の制作者ならびに評価者における心理学的タイプが作品表現への印象評価や理解度とどのように関連しているか明らかにする。先に筆者(佐藤, 2016)は箱庭の制作者における心理学的タイプと作品表現の特徴を明らかにしたので、本研究は箱庭作品の評定者における心理学的タイプも合わせて検討した。臨床心理学を専攻とする大学院生が、心理学的タイプ測定尺度(佐藤, 2005)と箱庭作品に対する印象評定尺度ならびに了解尺度に回答した。その結果、1)制作者の知覚機能は作品表現の客観的特徴ではなく印象評価において反映していること、2)箱庭作品の印象評価や理解は制作者の心理学的タイプだけでなく評価者自身の心理学的タイプとも関わっていることが明らかになった。こうしたことから、箱庭作品の心理査定においては、作品表現のイメージ水準での把握や、評価者自身の心理学的タイプの認識が重要であることが示唆された。本成果の一部は日本心理学会第81回大会にて発表し(佐藤, 2017a)、また学術雑誌に投稿し、採択された(箱庭療法学研究に掲載予定)。なお現在、非言語的表現の心理検査としてバウム作品を取り上げ、バウムの描画者ならびに評価者の心理学的タイプと作品表現の印象評価との関連について検討中である。

研究2 ユング理論によると心理学的タイプ間の対極性は弁証法的に乗り越えられると考えられているため、対極性がありながらも相補性をもつ両義性を測定する心理学的タイプ尺度を開発する意義がある。そこで研究2は、相補性を考慮に入れた心理学的タイプ測定尺度(Jung Psychological Type Scale for Complementary; 以下, JPTS-C)を作成する。先にJPTS-Cの内的整合性とJPTSによる併存的妥当性を確認した。本研究からは「外向-内向」および「感覚-直観」のタイプ間の機能的対極性と、JPTS-Cの両義性の構成概念妥当性が認められた。本成果の一部はパーソナリティ心理学会第26回大会にて発表した(佐藤, 2017b)。なお、評価者の心理学的タイプの両義性は、箱庭作品の印象評価や理解度とは関連していなかった。

- 4 公開した研究成果(学術論文・口頭発表等) 有 ・ 無

※「有」の場合は、論文抜刷、口頭発表要旨等を添付してください。

- (注1) 本紙に様式6号を添付のうえ所属長に回覧後、提出してください。
(注2) 平成29年度報告書の研究開発支援課の受付期日は平成30年3月29日(木)とします。
(注3) 提出のあった様式7号は、一部マスキングのうえPDF化してそのままホームページに公開します。
(注4) 提出されない場合は科研費学内奨励金規程第17条違反として第19条に基づき奨励金を返還いただきます。